

第16回県政インターネットモニターアンケート
「人と動物とが共生する社会」の実現を目指す取組に関するアンケート

※グラフの中の「n」は、各設問の回答者総数を示す。

○ 「人と動物とが共生する社会」の実現を目指す取組に関するアンケート

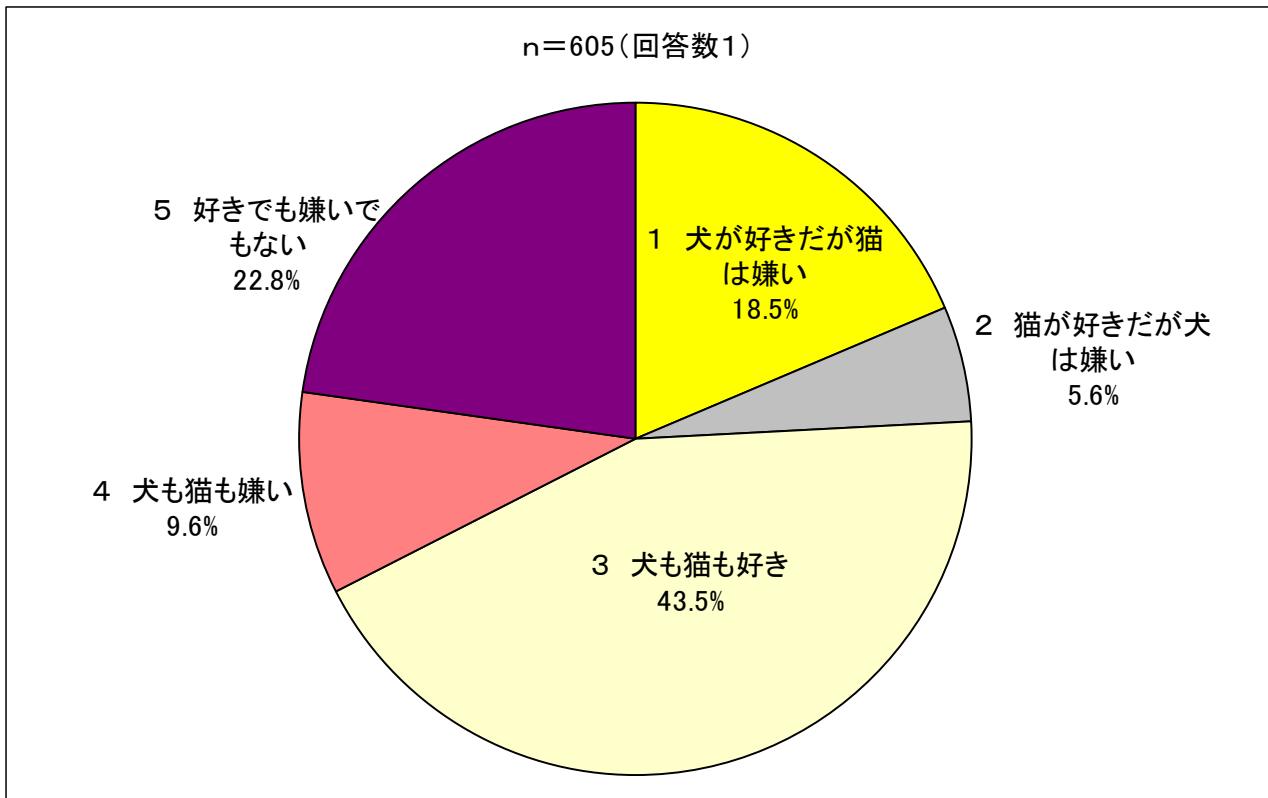
県では、平成26年に策定した「静岡県動物愛護推進計画2014」に基づき、動物愛護施策を推進しています。策定から6年が経過していることから、動物愛護管理行政の現状と課題を分析した上で、当該計画の見直しを行うことを検討しています。

当該計画の見直しにあたり、今後の本県の動物愛護施策の方向性を検討するため、県民の皆様にはアンケートを実施しますのでご協力をお願いします。

回答者数：605人（回答率：89.8%）			
	カテゴリー名	回答者数	%
性別	男性	306	50.6%
	女性	299	49.4%
年代	10代	5	0.8%
	20代	31	5.1%
	30代	79	13.1%
	40代	128	21.2%
	50代	152	25.1%
	60代	112	18.5%
	70代	79	13.1%
	80代	19	3.1%
住所	90代	0	0.0%
	東部	186	30.7%
	中部	222	36.7%
	西部	196	32.4%
職業	県外	1	0.2%
	自営業	39	6.4%
	会社員	227	37.5%
	公務員	16	2.6%
	主婦・主夫	150	24.8%
	学生	17	2.8%
	無職	112	18.5%
その他	44	7.3%	

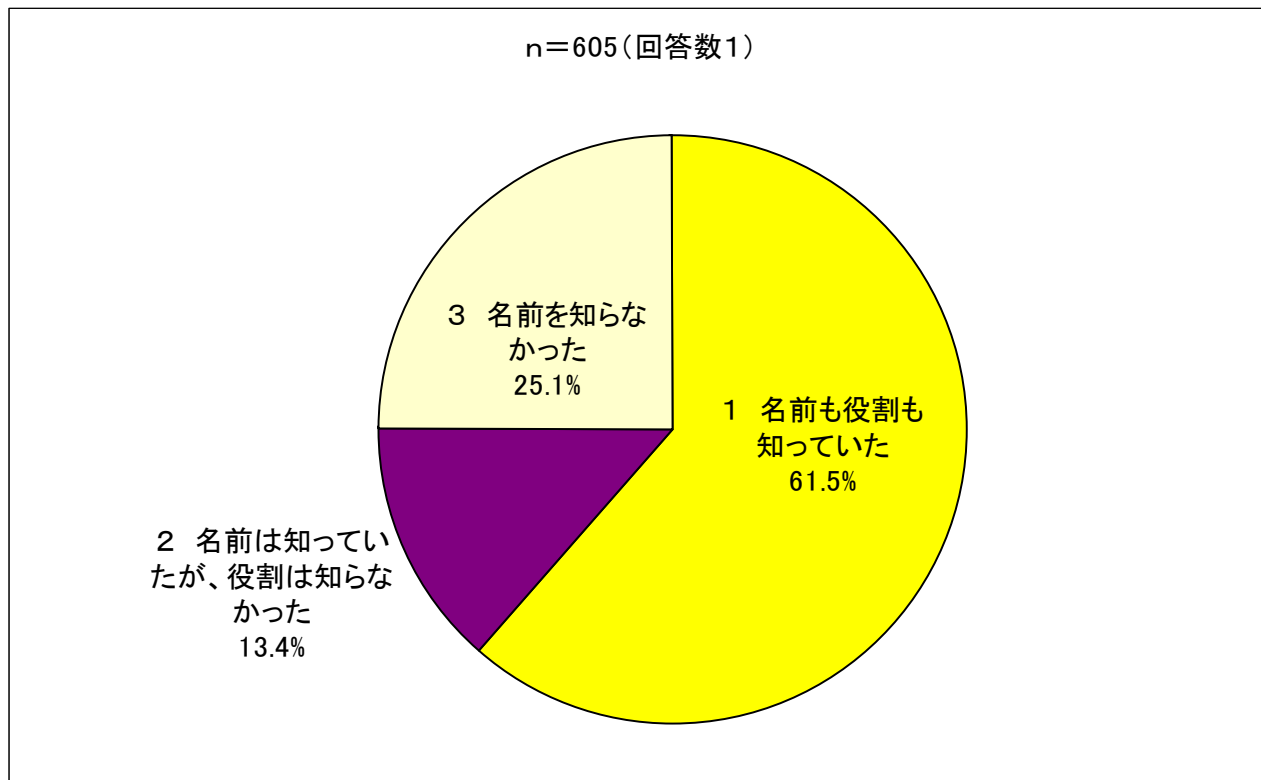
○「人と動物とが共生する社会」の実現を目指す取組に関するアンケート

問1 あなたは、犬や猫が好きですか。(回答数は1つ)

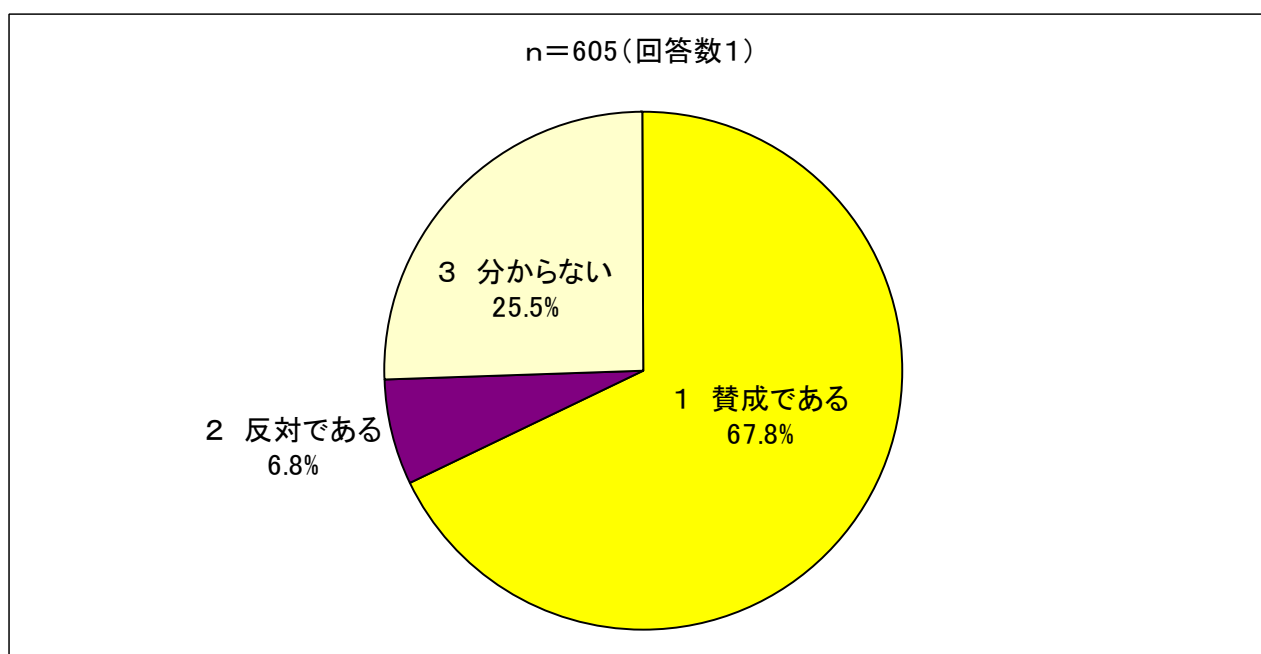


問2 あなたは、迷子動物の所有者を判明させるためにペットの体内に埋め込むマイクロチップ※について知っていましたか。(回答数は1つ)

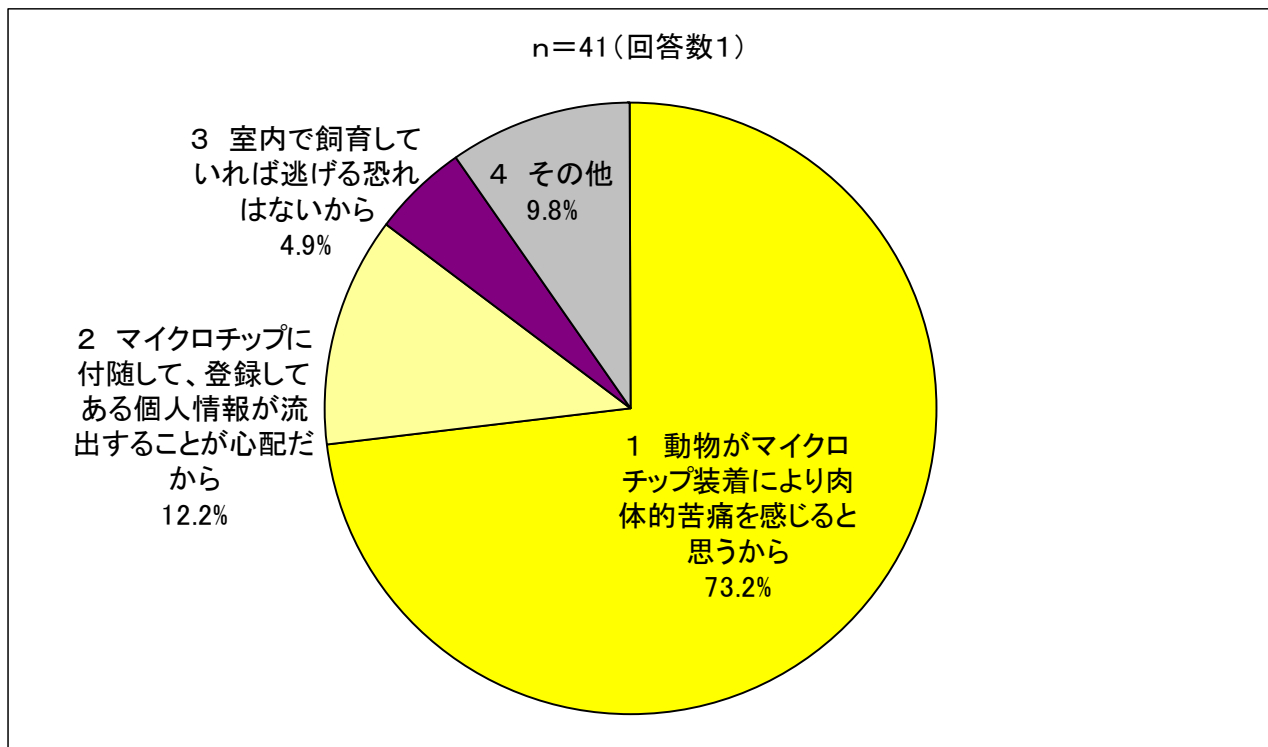
※動物の皮膚の下に埋め込む、個体識別番号が入力された長さ1センチ程度の電子機器。マイクロチップリーダーをかざすと番号が読み取れ、飼い主の氏名、住所等が分かるため、迷子動物の飼い主探しや遺棄の防止に役立つ。



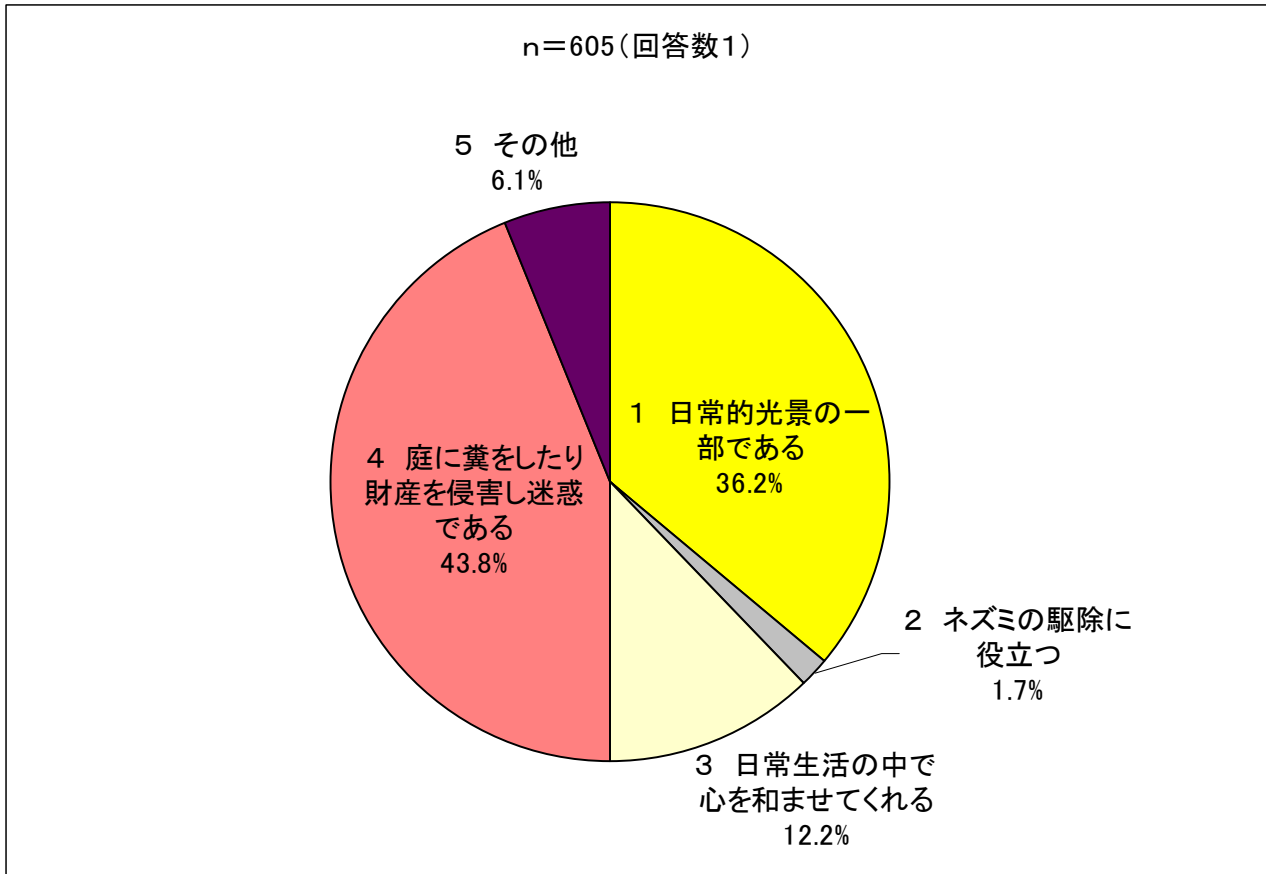
問3 令和元年度に動物愛護管理法が改正され、犬猫繁殖業者を対象に犬猫へのマイクロチップの装着が義務化されましたが、飼い主においては努力義務となっています。飼い主のマイクロチップの装着について、あなたはどのように考えますか。(回答数は1つ)



問3-2 問3で「2 反対である」を選択された方に伺います。飼い主のマイクロチップの装着について、反対と考える理由は何ですか。(回答数は1つ)



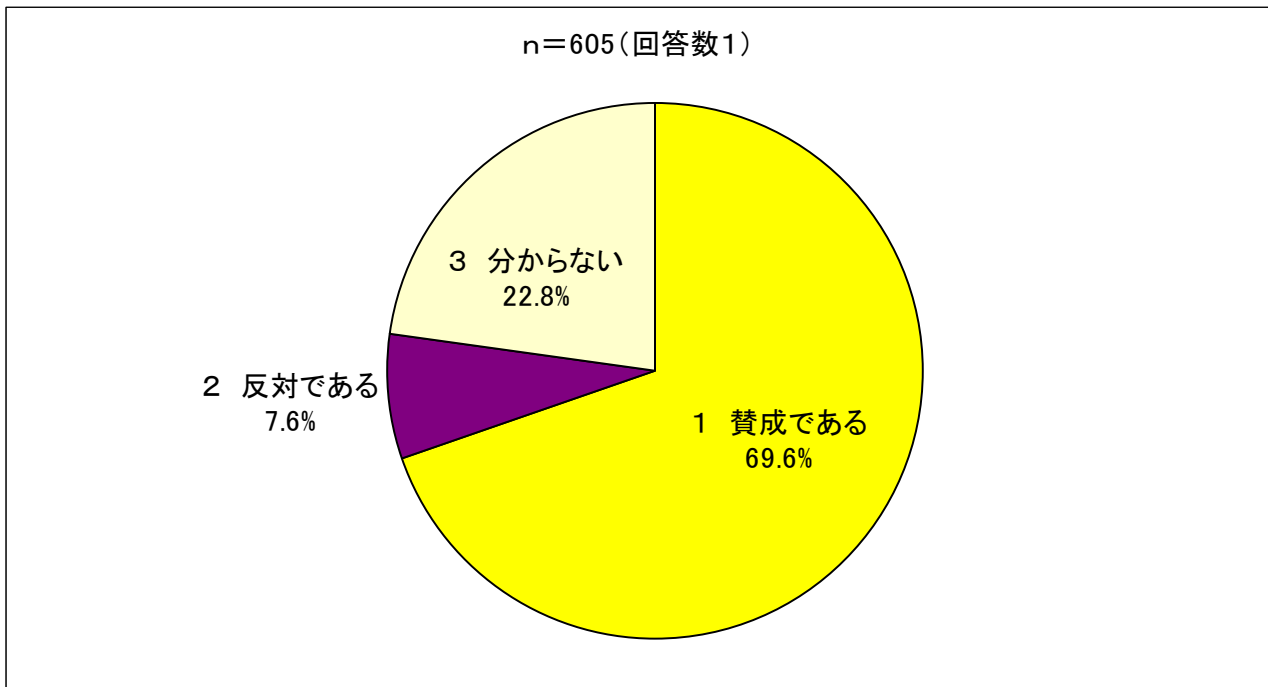
問4 県には、「敷地に糞や尿をされた」など野良猫による被害について苦情や相談が数多く寄せられています。また、県（政令市を含む）で引き取った犬・猫のうち、約8割が野良猫であり、譲渡先が見つからない場合は殺処分となっています。県では「人と動物とが共生する社会」を実現するために、人間が生活する環境の保全にも野良猫の命にも配慮した施策に取り組んでいます。あなたにとって、野良猫はどのような存在ですか。（回答数は1つ）



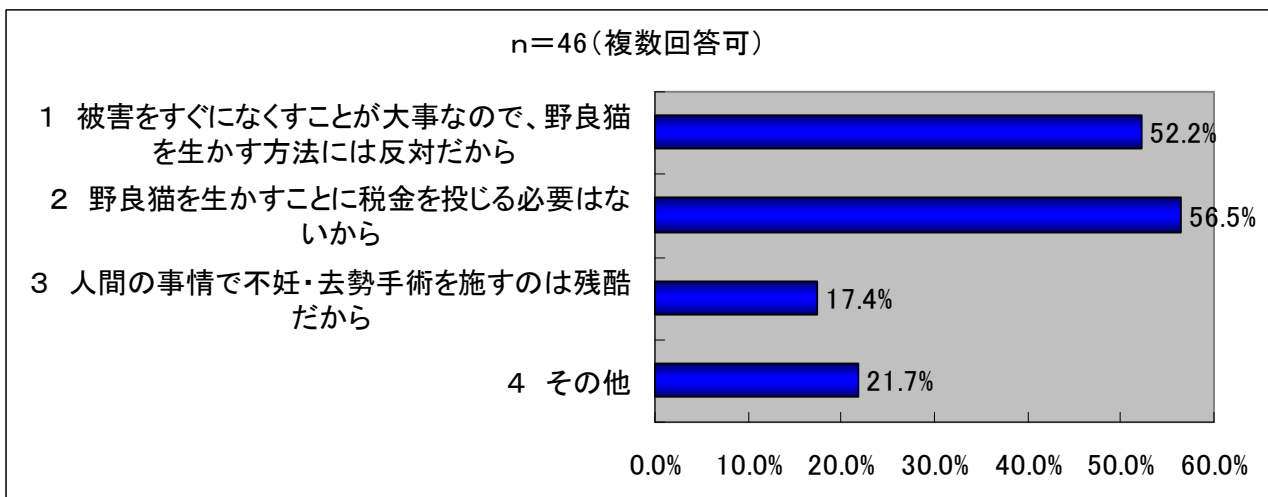
問5 野良猫にその命をまっとうさせ、かつ、将来的に野良猫による被害をなくすために自治体が取り組む地域猫活動※の一環として、県や市町がTNR活動※を推奨しています。このことについて、あなたはどのように考えますか。(回答数は1つ)

※地域猫活動:不妊去勢手術による繁殖制限、適切な餌やりや食べ残しの始末、糞尿の掃除等の野良猫の適切な管理に地域全体で取り組むこと。

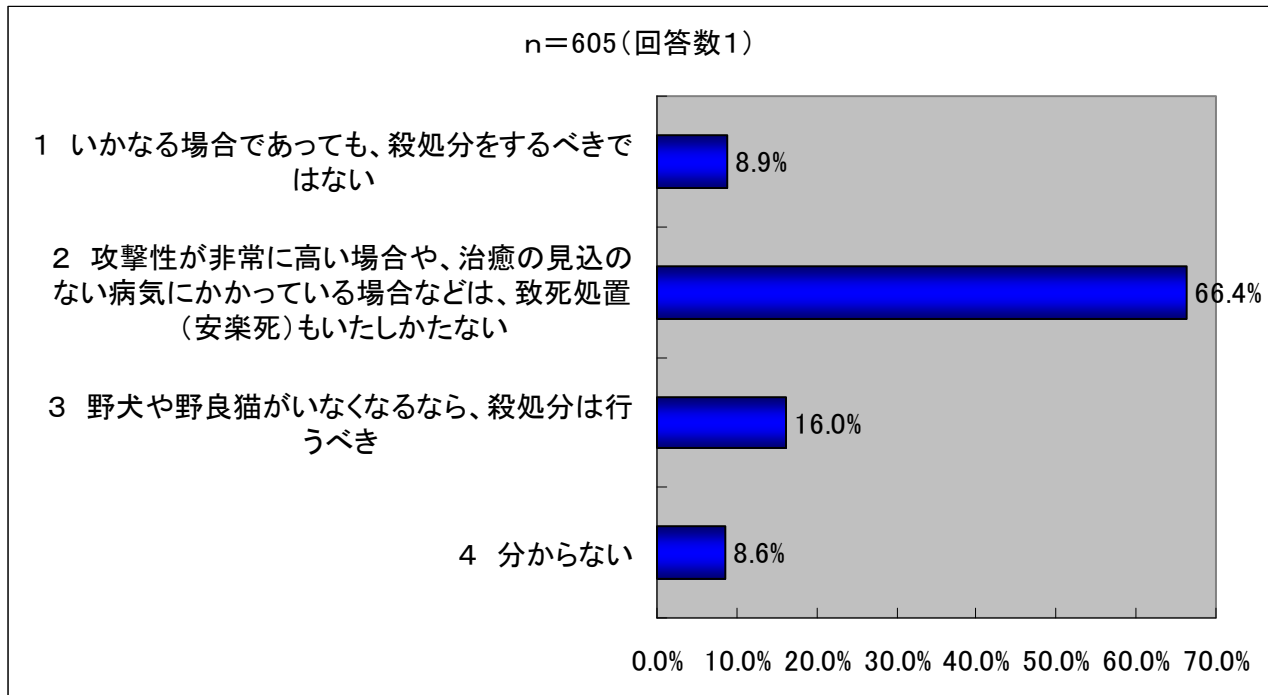
※TNR活動:一度捕まえて、不妊・去勢手術を施し、元の住処に戻すこと。



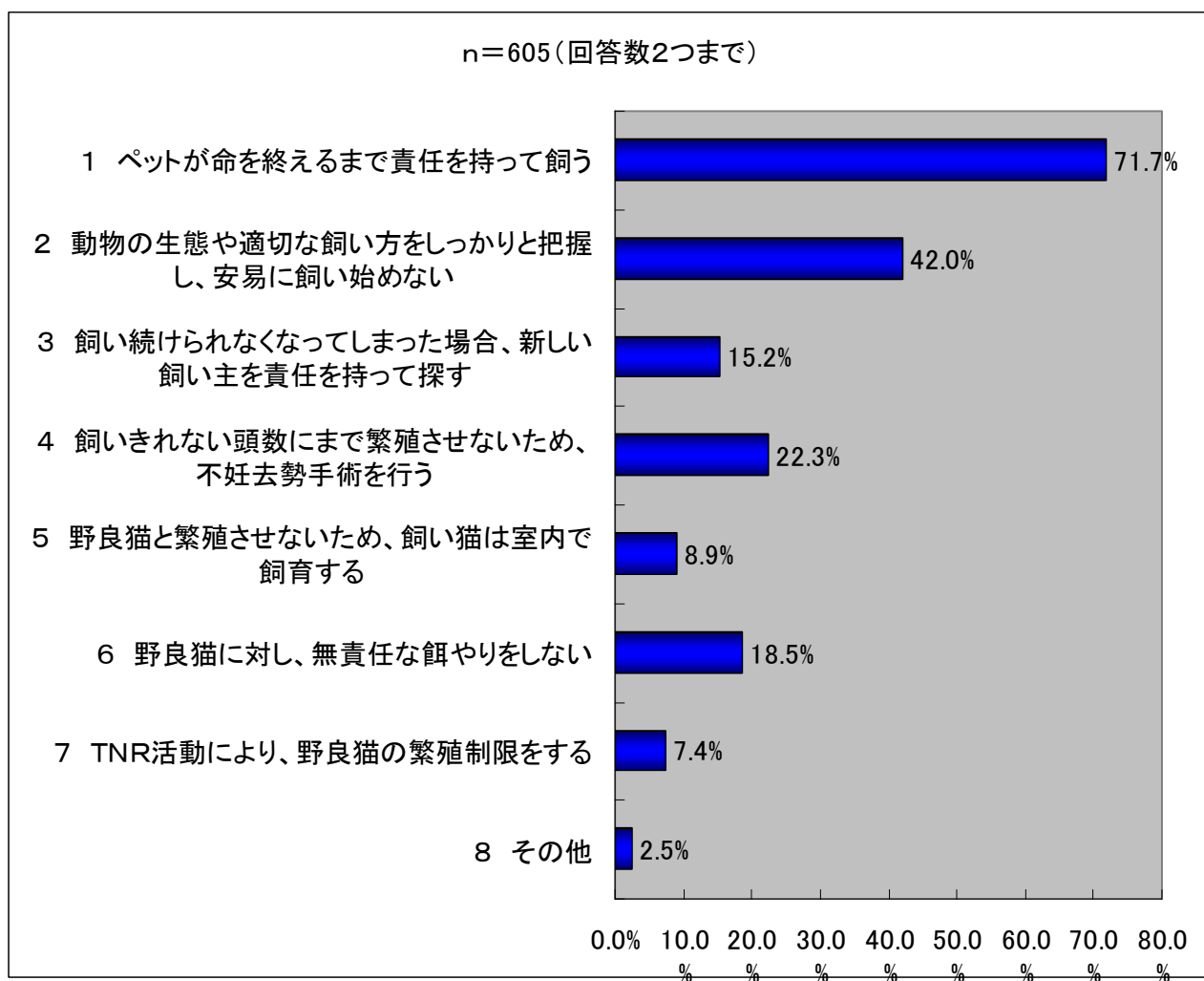
問5-2 問5で「2 反対である」を選択された方に伺います。TNR活動の推進に反対の理由は何ですか。(複数回答可)



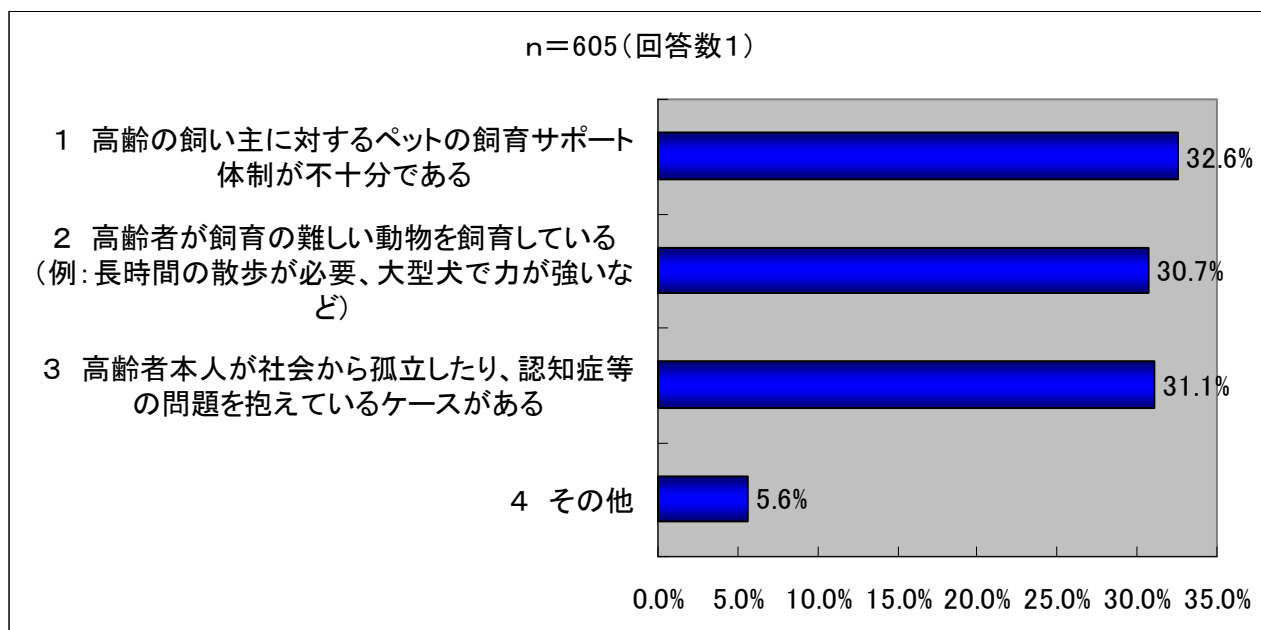
問6 県では、犬・猫の殺処分頭数0頭を目指しており、県（政令市含む）の殺処分頭数は近年大幅に減少しています（平成24年度：4,906頭→平成30年度：544頭）。しかし、治療が難しい病気や、周囲の人間や動物に伝染する危険な感染症にかかっている場合、攻撃性が激しく社会に順応できない場合などは、殺処分を実施しています。
あなたは、殺処分についてどのように考えますか。（回答数は1つ）



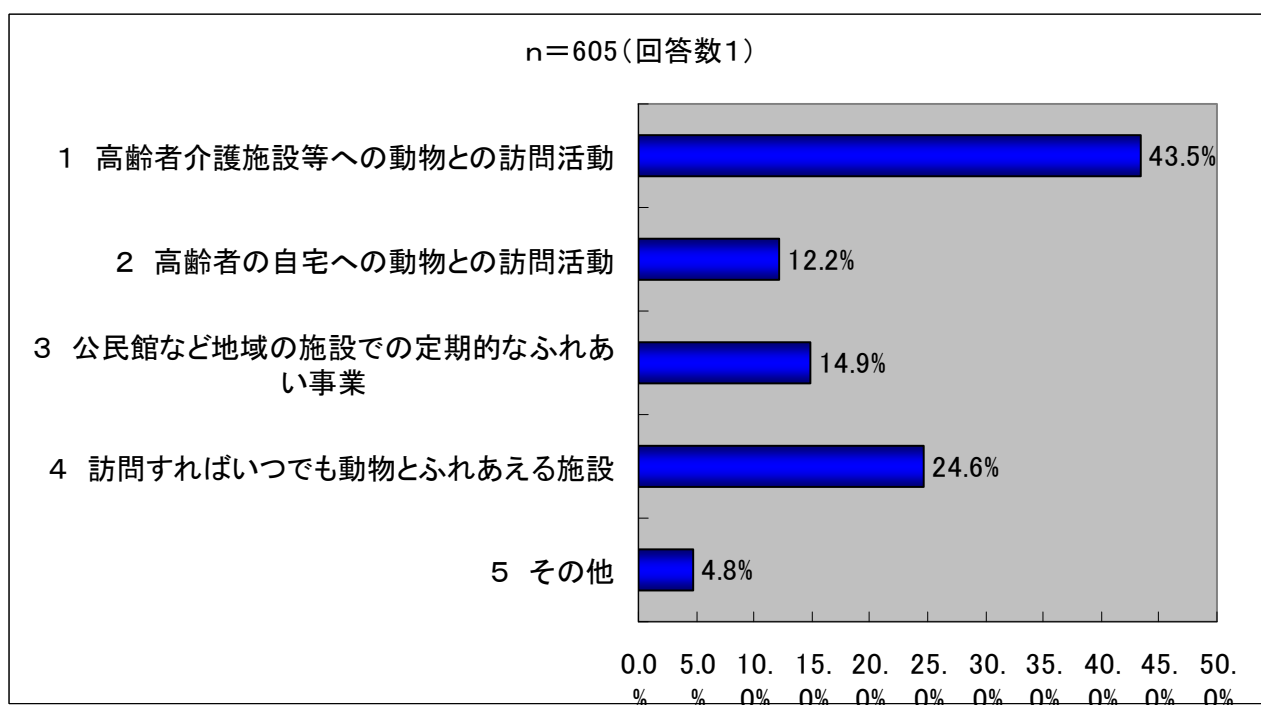
問7 犬や猫の殺処分頭数を減らすためには、飼い主も含め県民がどのようなことを心掛ければよいと考えますか。(回答数は2つまで)



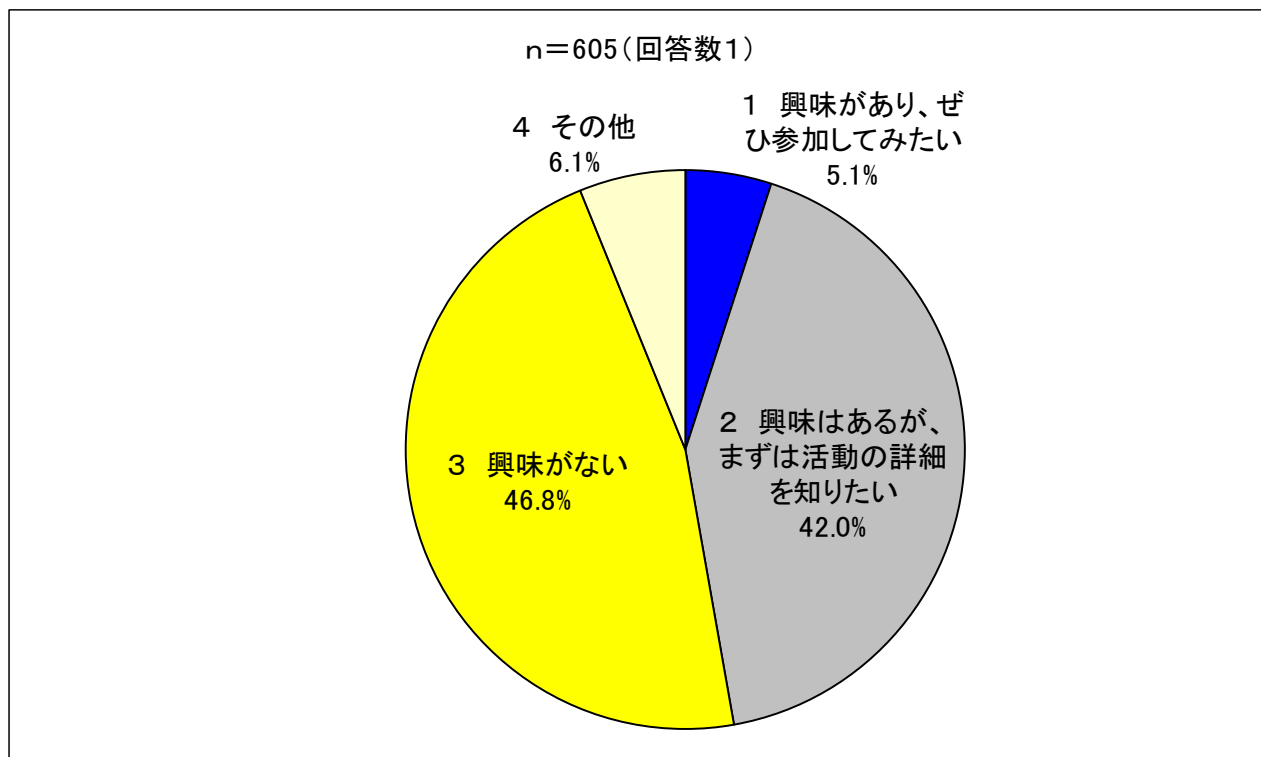
問 8 飼い主の高齢化により、散歩などの世話が十分にできない事例や、飼い主の入院や死亡などによりペットの行き場がなくなる事例が報告されています。
 このような問題を引き起こしている原因は何だと考えますか。(回答数は1つ)



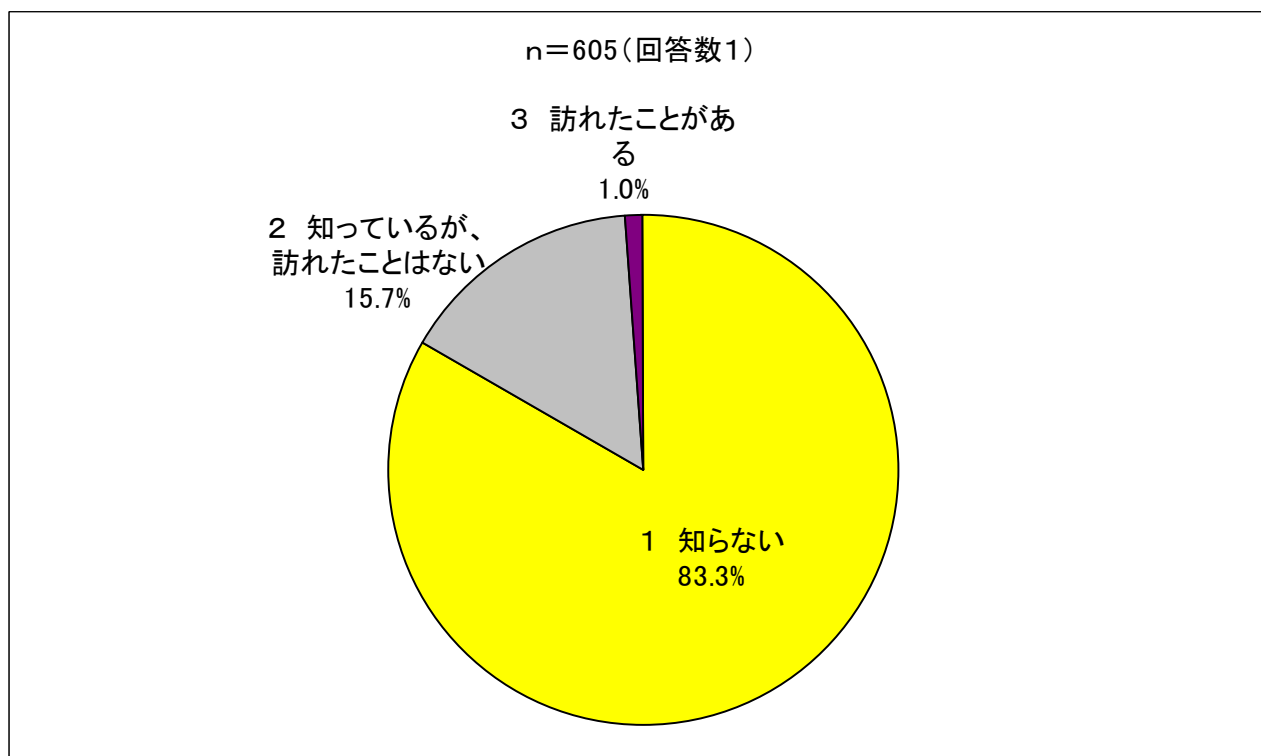
問 9 動物とのふれあいを通じた心の安定と、それに伴う生活の質の向上を目的として、動物とのふれあい活動が福祉施設や病院において注目されています。
 高齢者に対する動物ふれあい活動を実施する場合、どのようなものが効果的だと考えますか。(回答数は1つ)



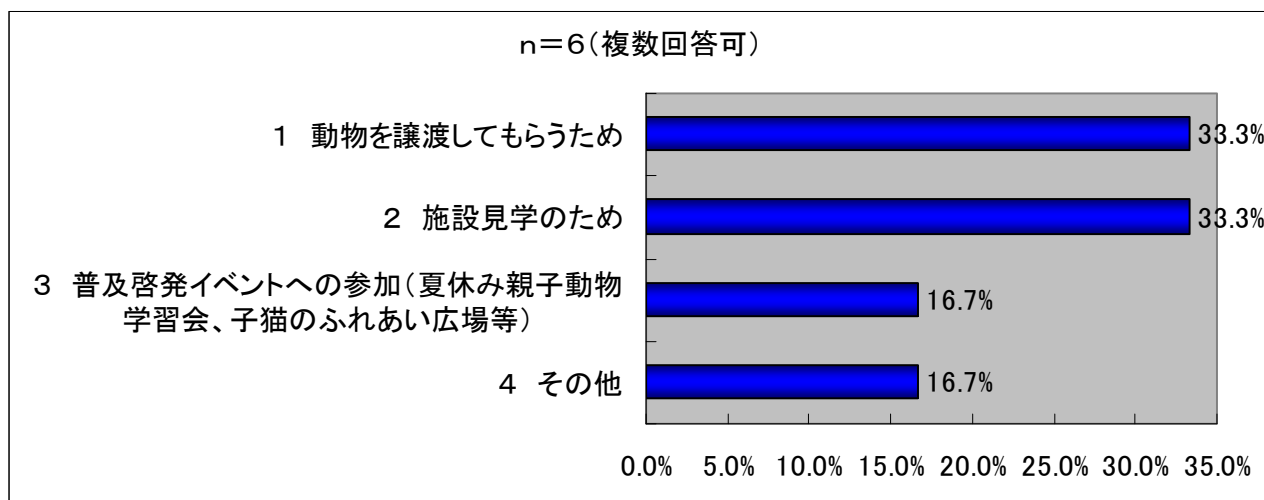
問 10 県や市町では、動物愛護や適正飼養に関する普及啓発事業や地域猫活動、引取先のない動物の譲渡等、様々な面でボランティアの協力を得ており、ボランティアの協力は施策の推進に欠かせないものとなっています。
あなたは、このような動物愛護ボランティアの活動に興味がありますか。(回答数は1つ)



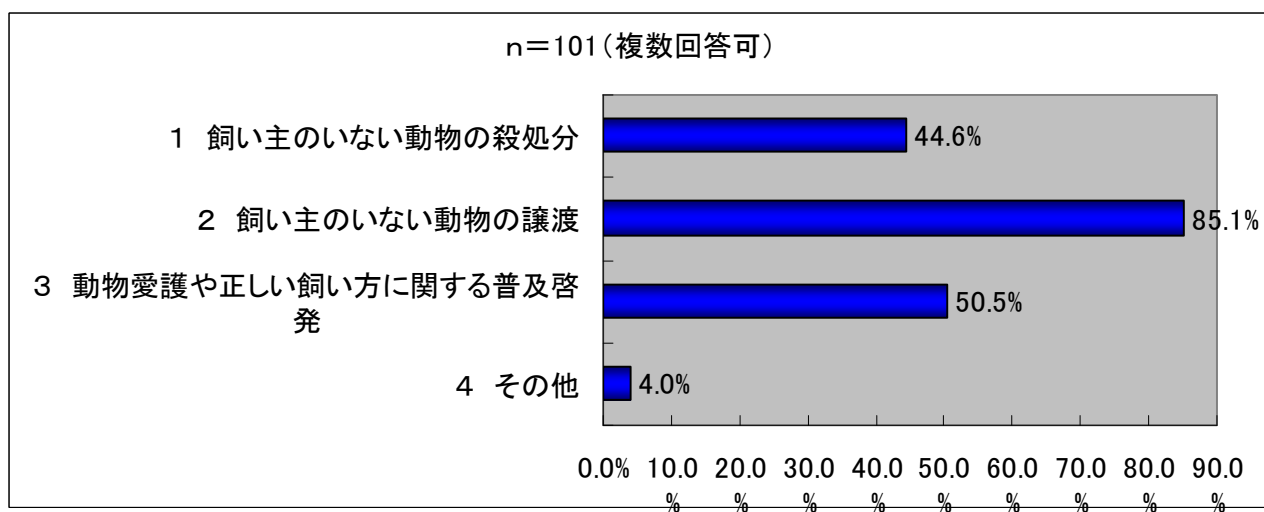
問 11 あなたは、県動物管理指導センター（浜松市西区大山町）を知っていますか。また、訪れたことがありますか。(回答数は1つ)



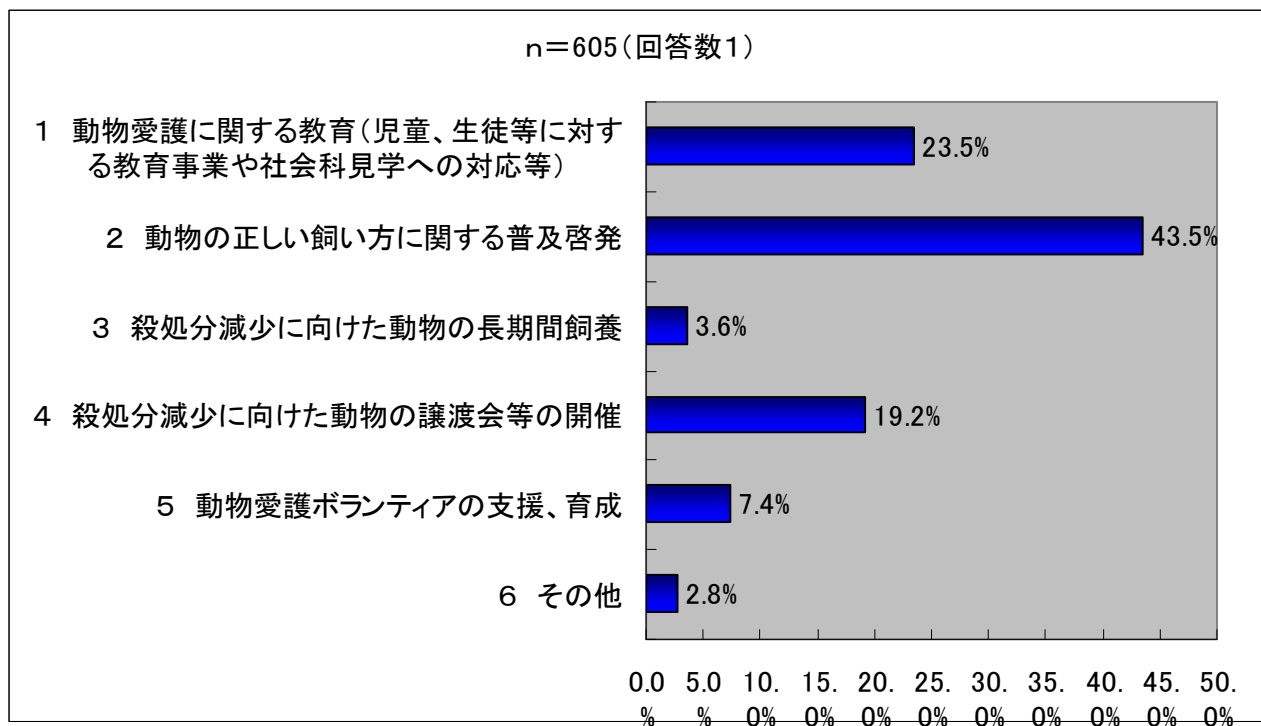
問 11-2 問 11 で「3 訪れたことがある」を選択された方に伺います。あなたは、どのような目的で静岡県動物管理指導センターを訪れましたか。(複数回答可)



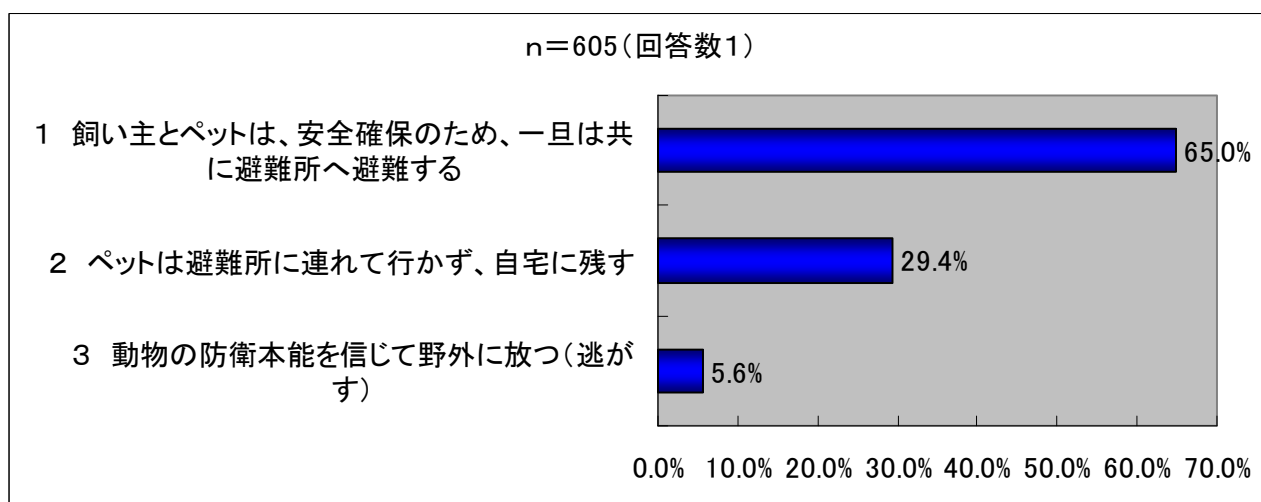
問 11-3 問 11 で「2 知っているが、訪れたことはない」または「3 訪れたことがある」を選択された方に伺います。あなたは、県動物管理指導センターがどのような業務を行っているか知っていますか。(複数回答可)



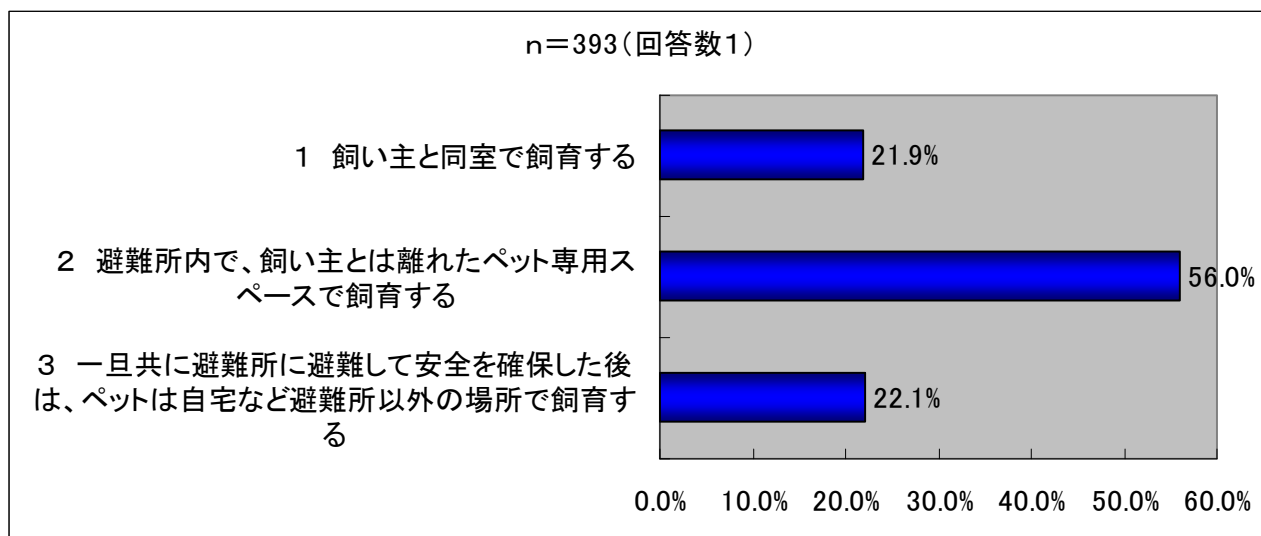
問 12 今後、県動物管理指導センターに最も求めることは何ですか。(回答数は1つ)



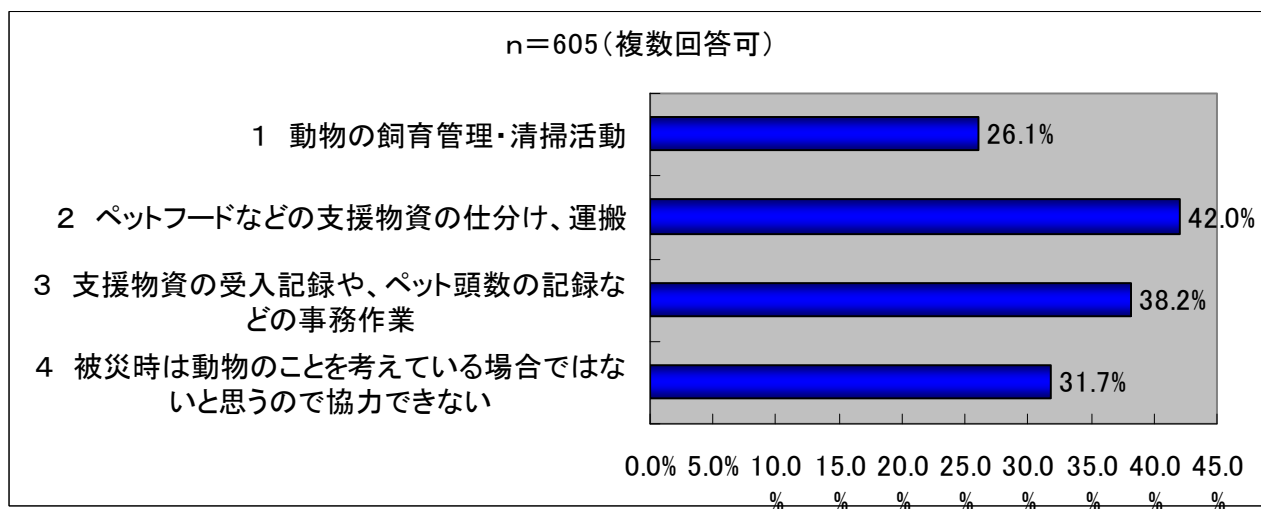
問 13 大規模地震を想定した時のペットとの避難について、あなたはどのように考えますか。(回答数は1つ)



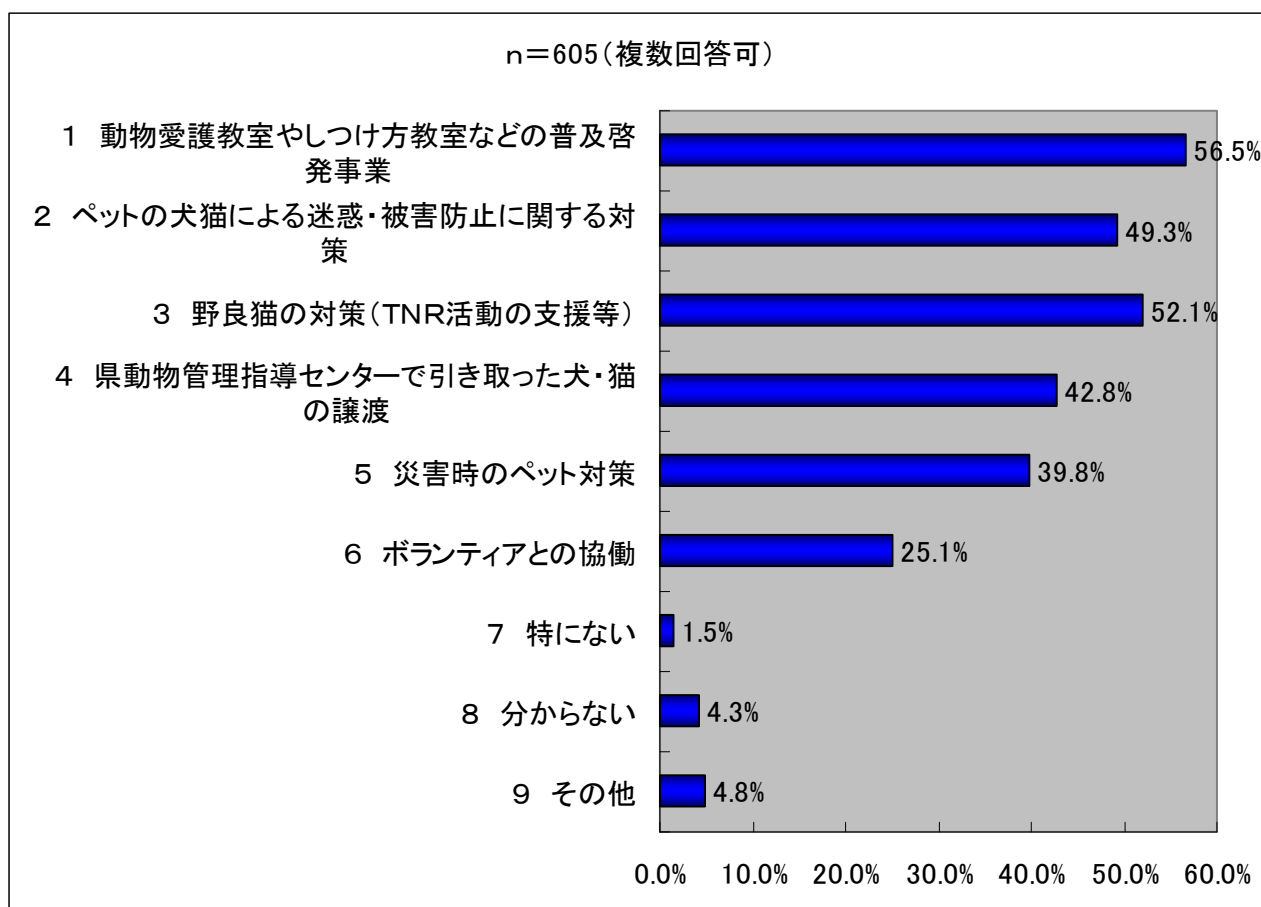
問 13-2 問 13 で「1 飼い主とペットは、安全確保のため、一旦は共に避難所へ避難する」を選択された方に伺います。飼い主が避難所生活をするようになった場合のペットの飼育について、あなたはどのように考えますか。(回答数は1つ)



問14 災害時には、被災したペットのための救護活動が必要となり、県ではこれらの活動について、ボランティアの方々の協力をお願いしたいと考えています。どのような活動なら協力しても良いと考えますか。(複数回答可)



問 15 今後、不幸な犬・猫を減らし、犬・猫による苦情を減らしていくために、県はどのようなことを充実すべきと思いますか。(複数回答可)



問 16 今回のアンケートについてご意見やお気づきの点がありましたら、ご記入ください。(500字以内)

担当課 健康福祉部生活衛生局衛生課
T E L 054-221-2347
F A X 054-221-2342
メール eisei@pref.shizuoka.lg.jp